

2026 年 8 月 7 日
一般社団法人漁業ブ

Supported by 日本財団 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

一般社団法人 漁業ブ

高校・大学生による海の体験と未来づくりツアー
漁業ブ【さかなたび夏の三陸ツアー2026】を開催しました！
2026 年 8 月 3～4 日 【岩手県】

一般社団法人漁業ブは、2026 年 8 月 3～4 日に、高校・大学生が海と漁業の現場を体験しながら水産業の未来を考えることを目的として、さかなたび夏の三陸ツアー2026（岩手）を開催いたしました。（このイベントは、日本財団の助成を受けて実施しています。）



「さかなたび」とは？ (<https://sakanatabi.net/>)



漁業ブ さかなたび

海へ、漁へ、未来へ。

海をもっと知りたい。漁を体験してみたい。食の未来を考えたい。
そんなあなたに、「漁業ブ さかなたび」。

豊かな海の恵みがどのように育まれ、どんな人たちが支えているのか。
三陸と北陸の海をめぐり、漁師とともに海に出て、生産者と語り、
獲れたての魚を料理して食べる。
さらに、海の世界や漁業の課題を学び、未来の食について考える。

見て、触れて、味わい、感じる。

机上の知識では得られない“リアルな海”と出会い、
食の未来について考える機会に。「食べる」だけじゃない、
海の奥深さを知るチャンス。
未来の自分の可能性を広げるきっかけにもなるかも？
海をもっと知りたい人、魚に興味がある人、食の未来を考えたい人—
どんな動機でも OK です。

一緒に行こう、海の世界へ！

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

「さかなたび」は、海と生きる地域の現場に飛び込み、漁業体験や地域交流を通じて、アクションを考える若者たちを育成するツアープログラムです。単なる体験型イベントにとどまらず、学びと行動をつなぐアウトプットワーク（体験・提言発信活動）を通じて、未来志向のリーダーシップ育成を目指しています。

本ツアーでは、現地体験を単なる思い出に終わらせず、体験からの学びを言葉にするワーク、未来への提言を考えるアウトプット発表、事後のアクション・プロジェクト実施など、参加者自身が「社会に発信する力」を身につける機会を設計しています。単に参加するだけではなく、「未来をつくる主役」としての一步を踏み出す体験となります。

イベント実施概要

- ・ **ツアー名**：漁業ブ「さかなたび」夏の三陸ツアー2026（岩手）
～海の恵みを味わい、未来へつなぐ学びの旅～
- ・ **開催日程**：2026年8月3日（月）～8月4日（火）（2日間）
- ・ **開催場所**：岩手県（釜石市、大船渡市）
- ・ **参加人数**：首都圏および三陸地域の高校・大学生 20 名
- ・ **助成**：日本財団

【1日目のツアーの内容と様子】



恋し浜でホタテ養殖見学クルーズ

佐々木淳さん・イザベルさん夫妻にお迎えいただき、耳吊り式ホタテ養殖に触れる湾内漁船クルーズに乗船。



ホタテのランチ BBQ

漁港の青空ランチで、恋し浜ホタテ BBQ をみんなでいただきました。大ぶりのホタテが美味しい！



唐丹湾漁業にてムール貝の養殖場見学

高水温でホタテの代替養殖を行うムール貝。海洋温暖化に適応した新たな挑戦のお話をお聞きました。



東京大学「海の勉強室」にて地域共創の学び

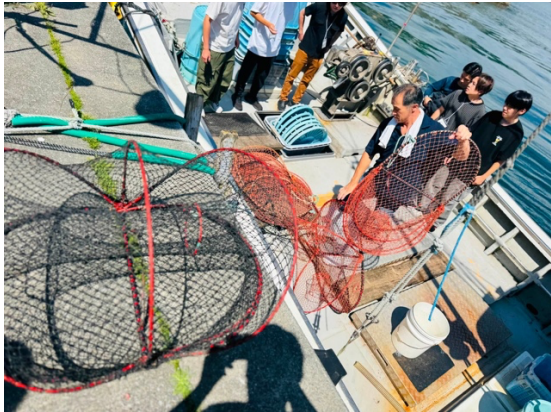
震災後、地域と連携して人材育成活動を行ってきた東大大気海洋研究所にて、土地に根ざした海洋教育の取り組みをお聞きました。



漁師さんと交流しながら釜石の地魚ディナー

和の膳 みや川にてドンコな・ホヤなど三陸の海の幸を堪能しながら、釜石を代表する漁師・佐々木洋裕さんと交流しました。

【2日目のツアーの内容と様子】



尾崎白浜漁港にてカゴ漁を学ぶ

釜石尾崎白浜漁港を訪問し、船に乗りながら漁師の佐々木洋裕さんにカゴ漁のお話を聞きました。真蛸の神経締めの実習体験も！



漁港で朝食・新鮮な茹で蛸に海鮮おにぎり汁で

神経締めした真蛸を処理してその場で茹で蛸に。ウニやサクラマスなど海鮮おにぎり汁と赤皿貝の汁ものと一緒在海辺の朝食をいただきました。



泳ぐホタテのブランド化のお話を伺う

水揚げされたばかりの活きた「泳ぐホタテ」。最高級ブランドとして都内百貨店で取引されるブランド化の取り組みとこだわりを、ヤマキイチの君ヶ洞社長にお話を伺いました。



泳ぐホタテと海鮮ランチ

レストラン与助にて、お話を伺った「泳ぐホタテ」のフライ・お刺身・小鉢など 絶品ランチを頂きました。参加者の交流時間にも。



最終アウトプットセッション

会場を釜石 PIT に移して、釜石市役所の齋藤氏から釜石の水産業の現状と課題、そして未来への取り組みの話をお伺いして、その後テーマに沿って活発な議論を行いました。



まとめとチームビルディング

最後の振り返りとまとめの議論を行い、2日間のさかなたびも終了。参加メンバーは今後も継続的に仲間として、さまざまな情報共有やイベントなどの繋がりを深めていきます。

参加した学生の声から（最終アンケートのコメントより）

- ・ 今回初めて三陸に来たが、各々の体験での取り組みが素晴らしいと思った。新しい人々を受け入れる体制も整えられていて、つながりを大切に、地域全体で盛り上がっていく大切さを学んだ。
- ・ また「さかなたび」に参加したいと思いました。体験、学び、交流もできますし、興味の分野の引き出しが自分の中で増えました。学生と話して、進路についても学びました。
- ・ 普段東京に暮らす自分にとって、地域に密着した柔軟に行われる海洋教育が新鮮だった。「三陸」や「岩手」と一括りにするのではなく、ミクロな視点で現場を見て、それをもとに水産業を考えていきたいと思った。
- ・ 「水産の未来は明るい」と思った。ツアーに参加しているメンバーも、多くの若者が興味をもって関係を広めているのが印象的でした。現場の方々もとても革新的な活動をされていて、漁業体験や海洋教育まで、全ての現場でそれぞれの熱い思いを知ることができました。
- ・ 水産業・海の面白さを人々に伝え、それが文化となって後世にも残るようにしたい。その気持ちが強くなった。それを実現できるように、アクションしていきたい。

一般社団法人漁業ブでは、今後も「さかなたび」を全国各地で展開していく予定です。ご期待ください。



一般社団法人漁業ブについて

一般社団法人漁業ブは、多様な異業種のメンバーが集まって、海洋教育・漁業体験・地域資源の魅力発信を軸に、次世代育成や持続可能な海づくりに貢献するプロジェクトを推進しています。未来のために地域と都市、海と人をつなぐ架け橋となる活動を展開中です。

公式サイト : <https://www.gyogyobu.jp>

公式 SNS : <https://www.instagram.com/gyogyobu/>

<お問い合わせ先>

一般社団法人 漁業ブ「さかなたび」事務局

担当：小西 圭介／松田 美穂

email : sakanatabi@gyogyobu.jp